



全七冊曲直亭主人編 九三  
南總里見八丈傳第九輯 十三  
十二之卷上 十五下  
中快  
丁子屋平長衛板



八月六日ヨリ廿二休廿七休九日休

南總里見八犬傳第九輯卷十二

東都 曲亭主人編次

第一百十四回

義侠元を瘞く郭跡を遂ぐ  
神靈魔を懲りて處女を全く

却説安西出来介の荒磯南強共信の當晩館山城の副門を本まはれ城門を遠くく  
敵はよま思慮人々まめめり安西景次と荒磯南強六人々之御同心忠告の御書  
仕ては事情之知れまへ一箇宗ヤの錯をる。禽隊の大將清澄の腹首を捕て未ぬ。之快を内へ  
入れ入頭殿の殿へ入れおくと。時。這隊の難兵何層の意を透す。障  
面。出まをる。餘の件雨外なるへ。雨個の外。清の。敵ありと。又。不。則。障  
類。この。頭人。奥。本。敷。出。有。城。入。有  
俣。本。即。便。面。對。面。士。路。











又南條の里見の旗を刺す事成らば矢度襲れし首有る事  
遂に歩む。特と頭をかん我ハ小鞠の首目も已に汝を奪取田殿  
至れるの素ち里見の恨ハわが仇と奇しき首級を知りて  
身首もろく書小我身は業に直りて是も亦知れり然りとて明  
貳のらわしこれれは是も亦罪ゆかり所ある。要るやと尋思  
既に決りしハ思ふと信々と獄卒們は其は示し獄卒們も此  
取首級と政し思ひの大家異議を議引る。其の指揮を板ひ  
軒座ハ本布の南前へ首級は對ひ合さる。社裏は念にやう荒  
恨ましく猪しうさう和主の首級と鳥さく情地は隠し  
在常四雁太の首級も首級は雁太の首級は雁太の首級は雁太

去れり夫は元竟の首級を本願の首級と我身は我身  
返り祈る者獄卒們も皆共侶の罷坐す。齊一拜し既りて  
獄卒は拾ふやといふ一人旅宿カ有る是是我れは首級は  
首級を軽く此と採らる易らればははははははははははは  
憑りて取括らるる。南強は首級と後々々々々々々々々々  
伊の身は首級の首級は雁太の首級は雁太の首級は雁太の  
遊樂は首級の首級は雁太の首級は雁太の首級は雁太の  
五六四の並樹の根あり橋の向廣の地は両箇の首級と並  
雁太の首級は雁太の首級は雁太の首級は雁太の首級は雁太  
藤の恩恵は首級の首級は雁太の首級は雁太の首級は雁太  
首級は雁太の首級は雁太の首級は雁太の首級は雁太の首級











嗚呼

難くはしむるも... 舟中橋の... 思ひ為... 一期の... 悔... 嗚呼... 舟中橋の... 思ひ為... 一期の... 悔... 嗚呼... 舟中橋の... 思ひ為... 一期の... 悔... 嗚呼...

か... 舟中橋の... 思ひ為... 一期の... 悔... 嗚呼... 舟中橋の... 思ひ為... 一期の... 悔... 嗚呼... 舟中橋の... 思ひ為... 一期の... 悔... 嗚呼...







百十四回十四丁九月六日

乙保六乙未年

九月十日

善德寺

福徳寺

大吉